

国土の森を未来へつなげよう  
～ 未来につながる平城っ子の木づかい ～ (第5学年)

1 単元名

「国土の森を未来へつなげよう ～未来につながる平城っ子の木づかい～」

2 単元目標

・国土保全のために森林資源の果たす役割や、日本の人々の生活や産業とのつながり、森林資源の育成や保護の努力や工夫を理解する。 【知識・技能】

・森林資源と国民生活のかかわりについて考え、国土保全等の観点から森林にかかわる林業を守るための国民のありかたについて考える。 【思考・判断・表現】

・森林の働きや林業に興味を持ち、そこでの人の営みを通して、森林保全の重要性について調べ、自分たちにできることを考える。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働き、森林の保護育成の方法を理解している。	・調べた事をもとに国土の環境を守り生活を維持するために、森林の保護育成に努めていることなどを考え、適切に判断している。	・森林資源の働きなどに関心を持ち意欲的に調べ、考えながら追究している。 ・国土の環境保全の重要性について関心を深め、協力しようとする。

4 教材について

本単元では林野庁が進めている「木づかい運動」を教材化する。「木づかい運動」とは1997年に採択された京都議定書のCO2削減目標の達成が、日本では手入れの行き届かない森林が増え、荒廃が進んでいる理由から危ぶまれているため2005年から開始した取り組みである。この「木づかい運動」を教材化することで持続可能な社会へ参画する力を育てることができると考えた。その理由は3つある。

1つめは、追究のエネルギーとなる学習問題「なぜ木を使ってくれてありがとうなのだろう」をつくることのできるからである。はじめに、東京オリンピックスタジアムの建設に何万本もの木が切られ木材として使われることを取り上げることで、子どもたちの「木は環境にいい」というイメージと「木を切ることは環境破壊につながる」というイメージの矛盾から子どもの思考を揺さぶることができる。次に木を使うことに対しての不安が増えてきたところで、林野庁の「木づかい運動」のポスターに書いてある「木を使ってくれてありがとう」という言葉に出会わせると「なぜ木を使ってくれてありがとうなのだろう」という疑問が生まれる。このように展開することで児童の思考の流れに沿い、主体的に追究していきたくする学習問題がつけられる。この学習問題を解決させていく過程として、子どもたちに「誰が誰に言っているのか」という視点から、様々なパターンを考え出させていくことで、このパターンを増やして

いくことで、子どもたちが学習問題を面白く感じると同時に中心概念の獲得に迫る思考過程が成立すると考えられる。

2つめは、「木づかい運動」を追究させることで、それに関わる持続可能な社会の形成に参画する人に子どもたちを出会わせ、その人の営みに学ばせることができるからである。この学習では2人のゲストティーチャーを招く。1人目は地域の自然・科学博物館である「森と水の源流館」の館長尾上忠大氏である。今年度の環境省グッドライフアワードにおいて環境大臣特別賞に選ばれている。「林業・農業・漁業を元気にしていくことで、地域の自然環境である、森や海、風土、文化を未来へ残す」活動を行っている。川上村の豊かな森がつくり出す吉野川・紀の川の上流・中流・下流の人々に、木の役割、林業の間伐による健康な山づくり、荒れた山が原因となった土砂災害の深刻さ、間伐しても木が売れないことから日本の山が荒れていき、第一産業への影響も心配されること等を伝え、山を守るために国産の間伐材を使う「木づかい運動」を呼び掛けている。子どもたちには、尾上氏が開発したアド箸(間伐材をPRした箸袋)を手にとらせながらその営みに触れさせる。2人目は奈良県の「木づかい運動」推進を担当する「奈良県農林部奈良の木ブランド課」の和田佳美氏である。和田氏は、日本人が使う木材のほとんどを外材に頼っていることで、外国の森林減少を進め、さらには日本の森をも荒れさせる原因となっている事実を奈良県民に知ってもらう活動を行っている。奈良県の高校生を対象に「奈良の木」部を立ち上げて、「その事実に出会う機会を作ったり、「奈良の木」を使って身近な道具をデザインしたりして「木づかいが」豊かな未来をつくることを伝えている。子どもたちには、和田氏がデザインした「未来×木づかいマグネット」を手にとらせながらその営みに出会わせる。

3つめは、身近な地域の森林保全から国土の森林保全へと学習を広げることができるからである。木づかい運動」は全国の地方自治体で森林環境の特徴に合わせた取り組みが行われている。山形県南陽市では市をあげて「世界最大の木造のコンサートホール」を造る「木づかい」に奮闘し、荒れた山を元気にし、土砂災害が少なくなっただけでなく、市民に音楽の楽しみをもたらしている。岡山県真庭市では、バイオマスエネルギーやペレットストーブなど、木をまるごと有効利用する「木づかい」で、荒れた山を元気にしていき、そこに生きる人々の生活を豊かにしている。このような事例を取り上げることで、国土の保全を守ると同じ目的を持って、林業や関係機関や市民が努力や工夫をしているということの一般化を図ることができる。

以上のようにこの「木づかい運動」を教材化することで、森林のはたらきは様々あることに気付かせ、土砂災害を防ぐためには森林が大切で、森林を守るためには国産材の木を上手に使うことで林業を成り立たせることの大切であることを理解させることができる。同時にこれらは国民一人一人の協力を大切にしなければならないという態度を育てられる。この態度こそが持続可能な社会の形成に参画する力であると考えられる。

## 5 指導について

森林資源の働きと国民生活のかかわりについて、「木づかい運動」という社会事象を切り口とした問題解決的な学習を通して、人々の働きや営みの背景や目的は何か、その働きや営みは自然環境や人々の社会生活にとってどのような意味があるのかを考えさせ吟味させていく。その際に位置や空間的な広がり、時間経過、人々の立場の関係に着目させる。これらから社会事象を見出させ、事象を比較・分類総合させながら国民生活と関連づけさせる。このようにして「木づかい運動」という社会事象の見方・考え方を働

かせて中心概念を考えさせる。森林のはたらきは様々あり、とくに土砂災害を防ぐために森林が大切で、森林を守るためには国産材の木を上手に使うって林業を成り立たせることが大切という態度を持たせる。学習のなかで、森林環境についての持続可能な社会の形成をしようと努力する人に出会わせ、その活動の具体物を手に触れさせながら学ばせ、苦労や努力、そして「子どもたちにも参画して欲しい」という熱い想いに触れさせることで「自分たちも木づかい運動を発信したい」という想いを子どもたちに持たせていく。自分たちの木づかい運動を発信するために、尾上氏や和田氏と子どもたちが話し合いをしていくなかで、「林業を成り立たせるために自分たちが可能な運動」を考えさせ行動化を実現させる。

## 6 ESD の構成概念について

(規範概念)

- ・公平性 …… 「木づかい運動」という持続可能な社会を目指す取り組みについて調べることで、土砂災害を防いだり、環境を整えたりする森林の恩恵は地域や世代を渡って公正であり、未来へ受け継いでいかなければならないことについて考えることができる。
- ・責任性 …… 「木づかい運動」に関わる人々の働きや営みの背景や目的は何か、その働きや営みは自然環境や人々の社会生活にとってどのような意味があるかを考え、実際に協力することで育てることができる。ここでは森林を守るためには国産材の木を上手に使うって林業を成り立たせることの大切さや、国民一人一人の協力を大切にしなければならないという態度が育つ。
- ・連携性 …… 「木づかい運動」について地域の実態に応じて、関係機関だけでなく、多くの市民の協力により展開されていることについて考えることができる。また、地域の森と水の源流館や奈良の木ブランド課と連携し自分たちの木づかい運動を発信していくなかで、持続可能な社会への協力について経験を通して学ぶことができる。

## 7 単元の展開( 社会10時間 総合2時間)

み つ め	○2020年東京オリンピックスタジアムに木が多様されていることが決まったことについて考える。	・木を切ることが与える影響を考えさせる。 ・「木を切ることが環境破壊」という子どもの考えがあるのに「木を使うことが感謝される」という運	ウ
-------------	--	--	---

<p>る</p> <p>(2)</p>	 <p>2020年オリンピックスタジアム</p> <p>○「木を使ってくれてありがとう」という考え方に興味を持つ。</p>	<p>動があることに気づかせる。</p>  <p>林野庁 「木づかい運動」 ポスター</p>	
---------------------	--	--	--

**なぜ「木を使ってくれてありがとう」なのだろう**

<p>し ら べ る</p> <p>(4)</p>	<p>○調べてきた予想の答えを発表し合い「森と水の源流館」尾上館長に評価してもらう。</p> <p>○尾上館長の話から森林のはたらきや林業の具体的に知る。</p>   <p>川上村土砂崩れの様子 森と水の源流館尾上氏</p> <p>○これまで調べてきたことを関連付けて、木づかい運動の「木を使ってくれてありがとう」の意味をねりあげる。</p>	<p>・「木づかい運動」という名前で林野庁という国の機関で行われていることに気づかせる。</p> <p>森と水の源流館図録「山や木のはなし」奈良県の副読本「森林とわたしたちの生活」から調べさせる。</p> <p>以下4つのことを関連付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害を防ぐためには、雨水を蓄えられる元気な森林が大切である。</li> <li>・元気な森林にするためには、間伐して成長しやすくする必要がある。</li> <li>・間伐する林業家を増やさないと間伐が十分にできない。</li> <li>・木を使うと林業家が成り立ち元気な山にするための間伐ができる。</li> </ul>	<p>ウ</p> <p>ア</p>
---------------------------------------	---	---	-------------------

<p>ふ か め る</p> <p>(2)</p>	<p style="text-align: center;"><b>自分たちが山を元気にするためにできる「木づかい」を考えよう</b></p> <p>○山を元気にするために自分たちができる日用品の木づかいについて考える。</p> <p>・木づかいは、国産材でないといけないのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐は自分たちができるものでないことを確認する。</li> <li>・「国産材がよい」「国産材でも外材でもよい」「外材がよい」から多面的に話合わせる。</li> <li>「外材の方が安いから木づかいしやすい。」</li> <li>「外材を使えば外国の森が良くなる。」</li> <li>「国産材だけだと、日本の木が無くなる。」</li> </ul>	<p>イ</p>
---------------------------------------	---	--	----------

	<p>○奈良の木ブランド課の和田氏の助言から、木使いには、何が大切なのかを考える。</p>  <p>「外材の使用は外国の山を元気にする？」 インドネシアの壊伐の様子</p> <p>○「木を使ってくれてありがとう」という木づかい運動の意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何が木使いに大切なのか考える。</li> <li>木を植えて、山をしっかりと育てるシステムは国産材にあるが、外材はほとんど整えていない。国土の保全や未来のために、山を育てるシステムのある材を選ぶことが大切であることに気づかせる。</li> </ul>  <p>「国産の木が無くなる？」六甲山 明治時代と現在の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べていた木づかい運動が、日本の木がほとんど使われていないことで山が荒れている問題を解決するために生まれた運動であることに気付かせる。</li> </ul>	ア
<p>ひろげる社会 (2)</p> <p>総合 (2)</p>	<p>○木づかい運動を体験しながら、地域の森林環境を保全しようと努力する奈良の木ブランド課和田氏の想いに触れて考える。</p>  <p>奈良の木ブランド課 和田氏</p> <p>○国土の保全のために森林を守る取り組みが全国で行われていることに気づき、木づかい運動の全国的な広がりを理解する。</p> <p>○国産材を上手に使い林業を成り立たせるために、自分たちができることを考える。</p>  <p>やむなく放置している間伐材</p> <p>○川上村に自分たちの考えを伝える。</p> <p>○木づかい名札をつくり、着けることで家族や友だちに「木づかい運動」を宣伝する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産材の木を上手に使うことが大切であることを「木使いマグネット」体験から考えさせる。</li> <li>・国産材が使われないと山が荒れる問題を、デザインした木づかい品から市民に伝えることで、山を持続可能にしたいという想いや努力に触れさせる。</li> <li>・「木づかい運動」は全国の地方自治体で森林環境の特徴に合わせた取り組みが行われていることに気づかせる。</li> <li>・南陽市文化ホールや真庭市の取り組みから、荒れた森が改善されていくことを理解させる。</li> </ul>  <p>ギネス記録になった山形県南陽市の木づかい運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業を成り立たせることは難しいことに気づかせる。</li> <li>・尾上氏のヒントから山に捨てられた間伐材の上手な使い方を考える。</li> <li>・尾上さんの名札のように、木づかい運動を宣伝できるような間伐材の使い方を考えさせる。</li> </ul>  <p>尾上氏の名札</p>	ア ウ

